

## \* PDC

- \* Cathode 信号の時間/巾を讀出す TDC として AMSC 64ch VME TDC を考えていた。8 月末から AMSC に再製造の可能性を尋ねていたが、一部手に入らない部品があるという理由で製造中止との連絡があった。必要台数は 14 台 (64x14=896ch)。対処方法は後回し。

## \* FEM

- \* ASD 極性変換カード (x80) : 納品済

- \* ASD (x60) : 製造中 (随契に時間がかかった)

- \* 全体方針はわからないが、検出器+架台+FEM までそろえる。

## \* SBT

- \* 前回報告した上流検出器の配置では、現在ある有効領域 100x100 のセンチでは小さすぎる事が判明。

- \* 清水さんに Beam Optics 計算をしてもらい、有効領域 120mmx120mm の物を新規製作する事にした。ただし、早い PMT (H1949B) がない。

## \* FDC1

- \* 再度組立後、HV などを配線

- \* P10 での試験

- \* P10 (安い為) を流し、HV をかけたが、1.0kV で 100nA 以上、1.3kV で 500nA 以上漏電流有り。

- \* HV の conditioning を約 3 日間行う。1.0kV で 15nA まで下がったが、色々他にも理解できない現象が沢山起こり、又再現性もない。

- \* これらの理由はわからないが、ガスをかえることにした。

- \* He+50%C2H6 での試験

- \* ガスを流し、約 10 回置換後、3 日ほど HV conditioning。

- \* single rate の変化によると、Vk, Vp= 1.65, 1.70kV 以上でプラトーになる。漏電流は 14 面あるにしては少ない方。

- \* dead channel 確認

- \* HIMAC 試験で幾つか dead channel があったので、β線 dead channel の確認

- \* 16ch ずつ hit pattern を確認した。

- \* ASD 28 個 (448ch) のうち、約 25ch 不良。非常! に多い。

- \* 修理中。ただし外箱内の配線部分なので作業性が非常に悪い。

- \* FDC1 架台 (千賀)

- \* 新たな部品が全部そろった (一部理研から送ってもらう)

- \* 組立中

- \* FDC1/架台の予定

- \* FDC1 架台と FDC1 上側読出回路修理が終った時点で、理研に移動する予定。

- \* FDC1 下側読出回路修理は理研で行う予定。現在作業環境が非常に悪い為。

- \* BDC/FDC1 動作特性 (高橋) : HIMAC data の解析

- \* BDC, P= 100 torr, z=17 : 位置分解能 (/面) ~80 μm (rms)

- \* Proposal

- \* 次回 PAC に "Soft dipole mode in Ca&Ni regions" を提出 (10/20)